

長田下地域 振興会だより 第18号

2013年(平成25年)11月14日発行

9/22 明神一座第5回地元公演

安芸長田明神一座による第5回地元公演が行われました。長田下地域自治振興会後援のもと、当日は多数の観客で賑わいました。友情出演として、日之原太鼓の演技、谷林様の歌謡曲、レイフラワー・ハッピーひととは&ひととはの仲間たちの歌と踊り、そして、自治振興会メンバーによる英語劇「ドレミファGO」が行われました。

その後、本番の人情時代劇「銀平子別れ情話」が公演され、好評の内に終演しました。前日当日と振興会役員の皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

(担当K、M)



10/27 第10回ふれあい運動会

10月20日に予定されていたふれあい運動会は、雨のため翌週の日曜日27日に延びてしまいました。当日はまさに運動会日和の好天に恵まれました。

おかげで100名を超える参加者が、老若男女和気あいあいとふれあいを深めることが出来ました。今年は小学生以下の子どもの参加も多く、子どもたち用のパン取り競争のパンが足りなくて、急ぎ追加注文をするというハプニングもありました。開会宣言、閉会宣言等も子どもたちが見事にこなし、地域の明るい未来を予感させました。また高齢の方でも競技に参加しなくても応援に駆けつけてくださり、お互いに声を掛け合う姿も印象に残りました。やはりふれあい運動会は、みんなが集える大切な行事だと思いました。

(担当B、T)



広島弁の号令によるラジオ体操



防災訓練もしました

夏の思い出



7/20 「おかげんさん」

～中長田集会所から地域へ～

本格的な夏を迎える時期、夏の暑さを乗り切るために、宮島の管絃祭を模してこの地域の「おかげんさん」を今年も行いました。当日は、晴天の中約100名の地域の皆さんが集まり、提灯灯笼をつくりそれを担いで地域の安全と人々の健康を願って行脚しました。灯笼には子ども達の描いた絵が蠟燭の火で映し出され、太鼓をたたく子ども達もいて、この地域の将来の希望を感じたものでした。関係者方々の苦勞に感謝です。

(担当 T, K)



8/3 いかだ遊船

長谷尻付近の三篠川で、今年も恒例のいかだ遊船が行われました。

子ども会の保護者9人子ども13人と明神クラブ会員10人が集まり、いかだ乗船の仕方について、会員指導を受けた元気な子ども達は救命胴衣を着用し保護者と共にさっそうといかだに乗りこみ川下りを楽しみました。

浅瀬になると、いかだから川に飛び降り、泳いだり魚を追いかけたりして、子ども達は大いに自然に触れながら夏休みのひと時を満喫したようでした。昼は、自分達で支度をしたカレーとスイカを食べ、「来年も」で解散しました。

(担当 K, M)



8/14 盆踊り

明神クラブの方々の音頭で数日前からひとは作業所、中長田集会所で練習し、8月14日の本番を迎えました。お盆で帰省され一年ぶりに見る顔や、小さな子どもさんも多く来られました。料理も品々にふるまわれ、にぎやかな夜となりました。

(担当 T, K)



「下長田地区の文化財保護と伝承」について考える⑨

今回は、下長田の古城の跡をたずねることにしました。

「下長田に古い城跡がある？どこにあるかいのう。」と、思われる方が多いのではないのでしょうか。長田の城跡と言えば、ほとんどの人は「田屋城」を思い出されるでしょうが、下長田にも、ちゃんとした城跡が残っているのです。

場所は、5区长谷尻の愛宕神社（火の宮さん）の裏山を頂上に向かって登ったところ。城の名前を「茶臼山城」といい、城主は、武安左近数方（たけやす さこん のりかた）といいます。この方は、内藤河内守の弟にあたり、兄とともに、内藤本家の命により永禄9年（1566年）、尼子三兄弟が茶臼山城の近くの「円明寺」に幽閉されると、その見張り番の役を務めた方だそうです。なお、現在、武安氏の子孫の方が、島根県温泉津町に住んでおられるそうです。



この山城は、標高240mで、長谷山の南に面する尾根にあります。本丸の中央部には、盛り土のような高台があり、お城の建物が建っていたであろう平段が、5つばかり敷えられました。頂上での滞在時間が短かったので、詳しい調査はできなかったのですが、きれいに手入れしてありました。

広報「むかいはら」（平成4年9月1日号）には、『ふるさとを語る』の欄に、「茶臼山城には、平段が大小9段もあるが、砦（取手）らしいものは5段で、残りは、自然の平丘に近い。本丸は240m地点に構えられ、中央に盛り土様の高台があって、5aばかり。二の丸も3a、ほかは1a内外である。本丸以下、数段の取手は、最長30mもの掘削（築研堀）によって取り巻かれている。これは、よその城では見かけられないほどの念入りで、かつての日本軍がさかんに作った「斬壕（ざんごう）」型式である。」と書かれています。

なお、この茶臼山城のある山の持ち主は、内藤憲明さんですので、入山されるときは、一言内藤さんに断って、登られることをお勧めします。

（担当F、T）

下長田人物伝(3)

第3回目は長田6区にお住いの中重美代さんにご登場願いました。

昨年度までの長い間自治振興会役員として尽力して下さいの中重さんは、東広島市の出身で53歳まで小学校教師をされていました。勤めている間は、地域に関わることが少なかったのですが、地域に貢献したいという気持ちは、在職中から強く思われていたそうです。



中重さんは、平成14年から『ふれあいサロン』（社会福祉協議会）の活動に参加されました。平成16年に振興会が発足しましたが、当初の役員は男性だけだったそうです。2年目から女性も参加となり、以来7年もの長きにわたり中重さんは、地域を盛り立て、活動を続けてこられました。振興会ではふれあい部一筋で、当初は渡井博さんを先頭に『ふれあいの集い』の企画をしたり、渡井さんから部長を引き継がれた後も運動会で新しい種目を増やすなどの工夫をされてきました。

「役員として活動する中で4区の方をはじめ多くの方々と知り合えた喜びと同時に一人一人が主体性を持って取り組んでいくことが大切ではないかと思います。」と任期を終えて、これからの期待を込めて語られています。「振興会は役員だけのものではなく、地域の人たちがいかに助け合い結びつきを強くしていけるか、企画立案して呼びかけることも必要」とも。この振興会だよりの役割も考えさせられます。仕事を辞め、第二の人生が始まった時「これから自分にとって楽しいと思えることを選んでやっぺいこう」と考えたと言われる中重さん。ひとは作業所から声がかかり、仲間と過ごした、ゆったりとした時間も楽しい思い出のひとつだったとか。若いときはテニスやゴルフに汗を流すアウトドア派だったそうですが、現在は、時間を見つけては、パッチワークやちりめん細工に取り組んでおられます。また、中国新聞の天風録の書写も続けて一年近くなるそうです。前回の火上さんしかり、書くことは心と体を元気にしてくれる手段なのかもしれません。

3期務めてこられた民生委員の任期もあとわずかだそうです。本当にお疲れさまでした。これからも中重さんの“楽しいと思えること”を私たちにも分けてください。
(担当了、K)

【広報委員会からのお願い】 特集「昔の写真集」を企画しています。地域に関する懐かしの写真をお持ちの方はご協力ください。ご連絡は、広報委員（谷林文男、寺尾文尚、大上保雄、松田清、児玉豊多、金岡俊信）まで。

発行：長田下地域自治振興会 担当：広報委員会、企画調整部